

硫黄島の火山活動解説資料（令和7年6月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

今期間、硫黄島内及びその周辺海域で噴火は認められませんでした。2022 年以來、^{おきなほま}翁浜沖ではマグマの噴出が繰り返し発生しており、今後も同様の噴火が発生する可能性があります。また、長期的に島全体の隆起を示す地殻変動が認められ、多くの噴気地帯や噴気孔があり、各所で小規模な噴火が時々発生していることから、翁浜沖での噴火同様、島内における小規模な噴火の発生にも警戒してください。

平成19年12月1日に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。また、平成24年4月27日以降の火山活動に伴い、平成24年4月29日に火山現象に関する海上警報を発表しました。その後、警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気等の表面現象の状況（図1、図2）

今期間、島内及びその周辺海域で噴火は確認されませんでした。

^{あそだいひがし}阿蘇台東監視カメラでは、井戸ヶ浜及び阿蘇台陥没孔からの噴気は観測されませんでした。

26日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、翁浜沖のこれまで噴火がみられた地点で気泡の湧出が認められました。また、離岩周辺の噴気孔では白色の噴気が認められました。

・地震や微動等の発生状況（図3、図4①～③、図5①～④）

今期間、火山性地震の発生頻度に目立った変化は見られませんでした。中期的には2024年以降、それ以前と比較して火山性地震の発生頻度に低下傾向が認められます。また、これまでに翁浜沖の噴火活動でみられたような単色型微動は、今期間、19日に2回観測されました。

・地殻変動の状況（図4④⑤、図5⑤、図6、図7）

GNSS 連続観測によると、長期的に島全体の隆起が継続していますが、2024 年頃から隆起速度に低下が認められます。また、2024 年8月以降、隆起が停滞する期間も認められます。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

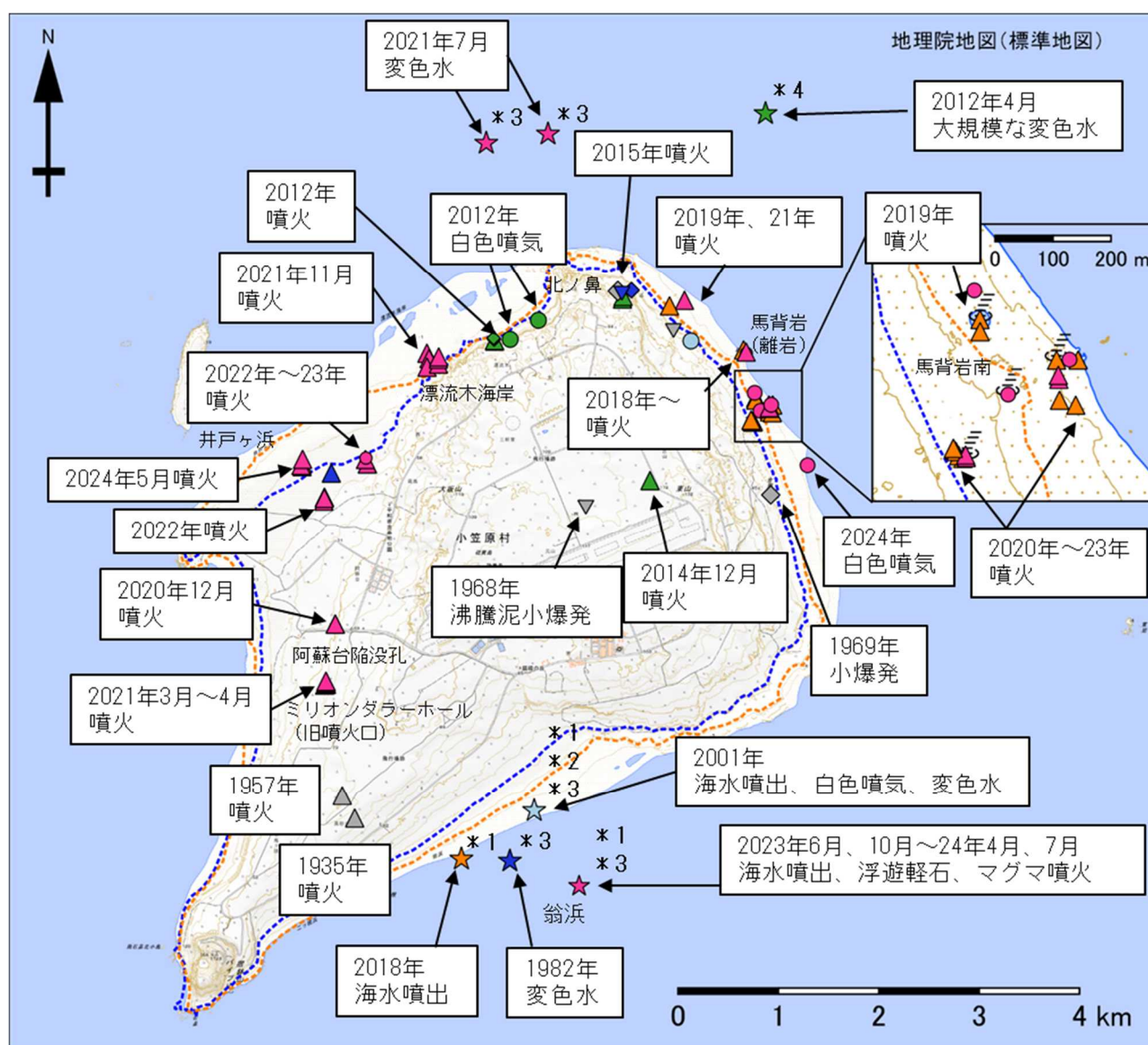
今回の火山活動解説資料（令和7年7月分）は令和7年8月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『2万5千分1地形図』『数値地図 25000（行政区・海岸線）』を使用しています。



イベントの種別	年代（色）	海岸線
△ 噴火（噴出物がごく少量のものを除く）	△ ～1970 年	--- 1978 年
▽ 噴火（規模不明）	▲ 1971 年～1990 年	--- 2016 年
◇ 詳細不明イベント	▲ 1991 年～2010 年	
○ ガス噴出イベント・熱水噴出イベント	▲ 2011 年～2015 年	
☆*1 海底噴出イベント	▲ 2016 年～2020 年	
☆*2 噴煙イベント	▲ 2021 年～	
☆*3 濃い変色水が円形に広がるように海面上に湧出		
☆*4 大規模な変色水の新たな出現		

図 1 硫黄島 過去に噴火等が確認された地点及びそれらにおいて認められた現象

噴出地点及び各噴出地点で確認された現象は、関・他(2024)* (2023年8月まで)及び気象庁、海上自衛隊及び防災科学技術研究所(2023年9月以降)の観測を基に記載しています。青及び橙破線はそれぞれ1978年及び2016年の海岸線を示します。

*関晋・長井雅史・及川輝樹 (2024) 2002 年から 2023 年 8 月における硫黄島の噴出地点. 地質調査総合センター研究資料集, no. 755, 12p.+1 file

(<https://www.gsj.jp/publications/pub/openfile/openfile0755.html>).

・今期間、硫黄島内及びその周辺海域で噴火は認められませんでした。



図2-1 硫黄島 翁浜沖の状況（26日、海上保安庁撮影）



図2-2 硫黄島 離岩周辺の状況（26日、海上保安庁撮影）

- ・26日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、翁浜沖のこれまで噴火がみられた地点で気泡の湧出が認められました。また、離岩周辺の噴気孔では白色の噴気が認められました。



図2-3 硫黄島 井戸ヶ浜の状況（28日、阿蘇台東監視カメラによる）
矢印は2024年5月の噴火が認められていた位置を示しています（図1参照）。

- ・今期間、井戸ヶ浜及び阿蘇台陥没孔で噴気は観測されませんでした。

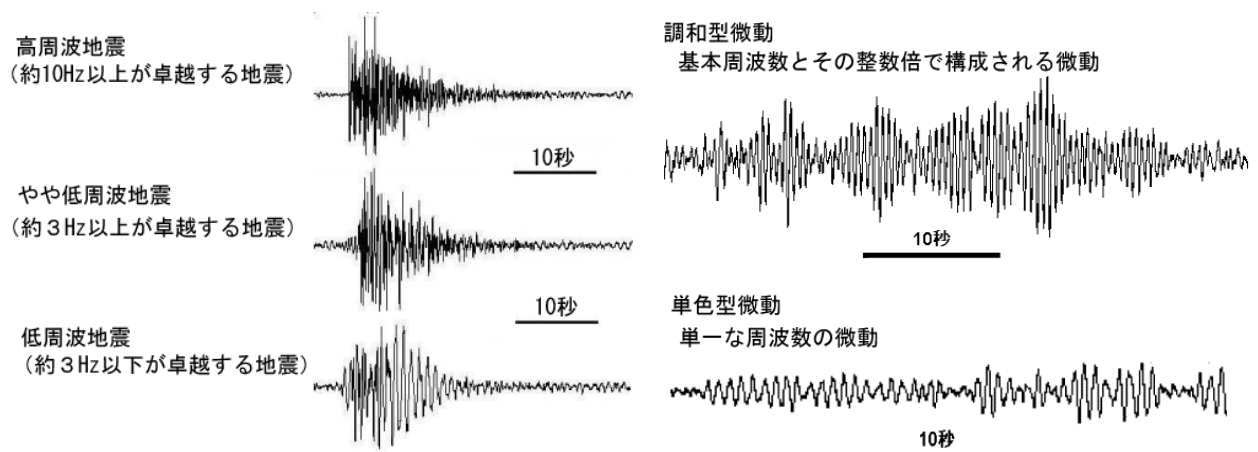


図3 硫黄島 硫黄島でみられる主な火山性地震、微動（調和型、単色型）の特徴と波形例

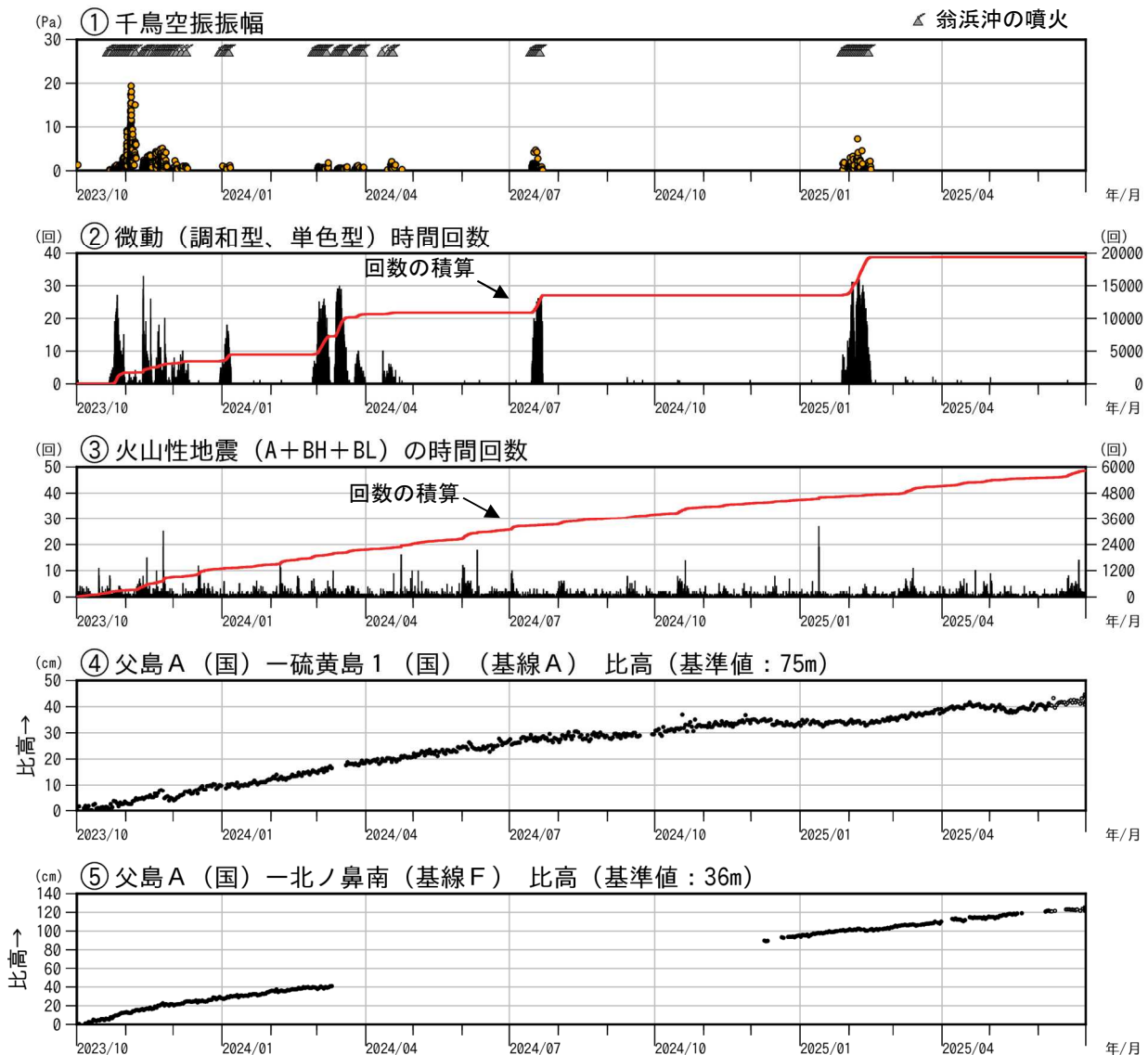


図4 硫黄島 火山活動経過図（2023年10月1日～2025年6月30日）

【計数基準】千鳥あるいは天山（防）で上下動振幅 $30 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 2.0 秒以内

千鳥観測点での空振の振幅は、上記の地震の計数基準によらず、噴火に伴う明瞭な信号であると判断した場合にのみ検測しています。ただし、ノイズレベルが大きく、噴火に伴う空振の振幅が検測できなかった期間があります。

④ 父島Aに対する硫黄島1の比高の変化（図7のGNSS基線Aに対応）

⑤ 父島Aに対する北ノ鼻南の比高の変化（図7のGNSS基線Fに対応）

（国）：国土地理院 グラフの空白部分は欠測

- ・ これまでに翁浜沖の噴火活動でみられたような単色型微動は、今期間、19日に2回観測されました（②）。
- ・ 今期間、火山性地震の発生頻度目立った変化は見られませんでした（③）。
- ・ GNSS連続観測によると、長期的に島全体の隆起が継続していますが、2024年8月以降、隆起が停滞する期間も認められます（④⑤）。

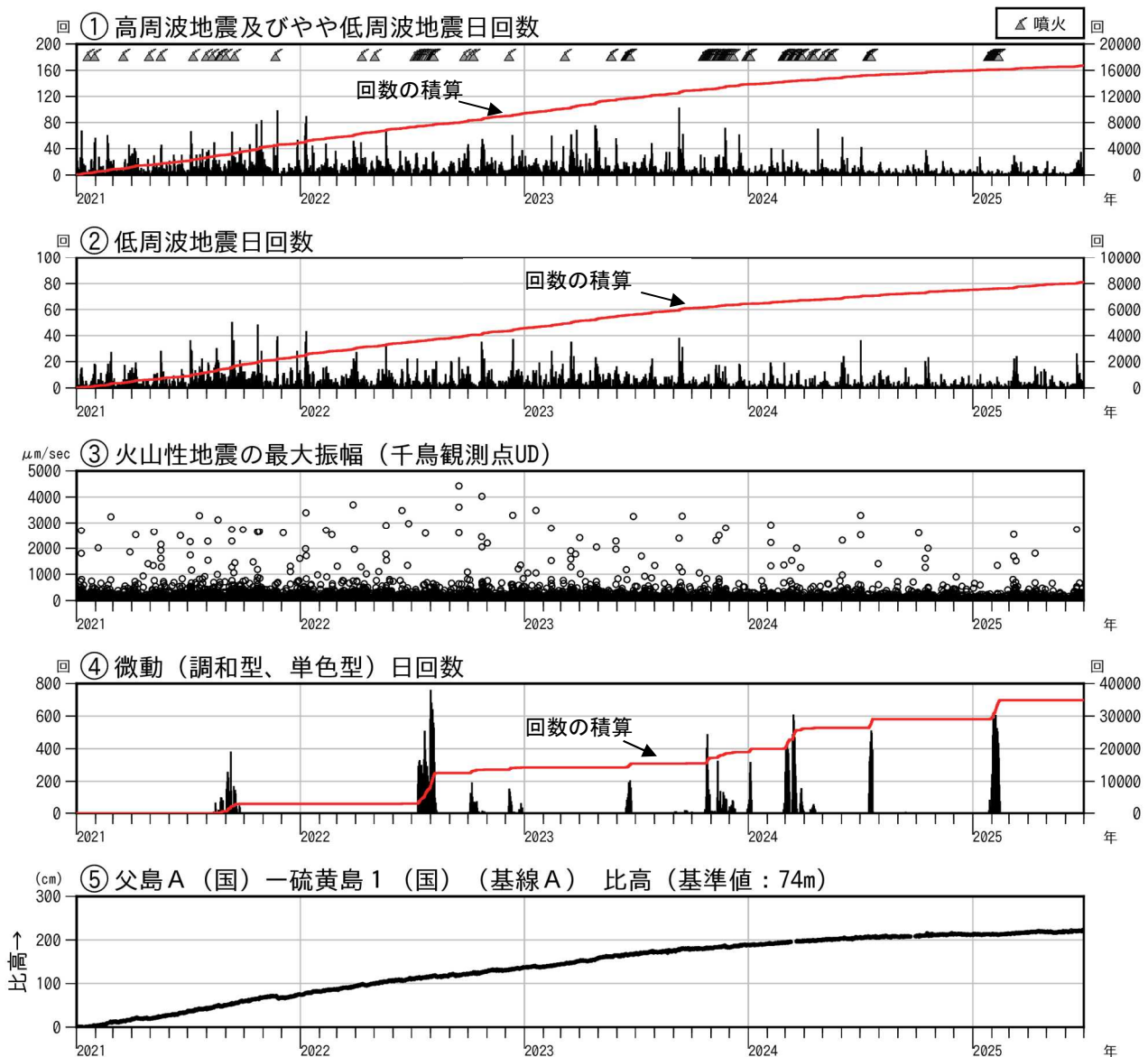


図5 硫黄島 火山活動経過図（2021年1月1日～2025年6月30日）

【計数基準】千鳥あるいは天山（防）で上下動振幅 $30 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 2.0 秒以内

- ・ 中期的には 2024 年以降、それ以前と比較して火山性地震の発生頻度に低下傾向が認められます。
- ・ 単色型微動は、2021 年以降の翁浜沖での噴火の際にもみられました。
- ・ 長期的に島全体の隆起が継続していますが、2024 年頃から隆起速度に低下が認められます。また、2024 年 8 月以降、隆起が停滞する期間も認められます。

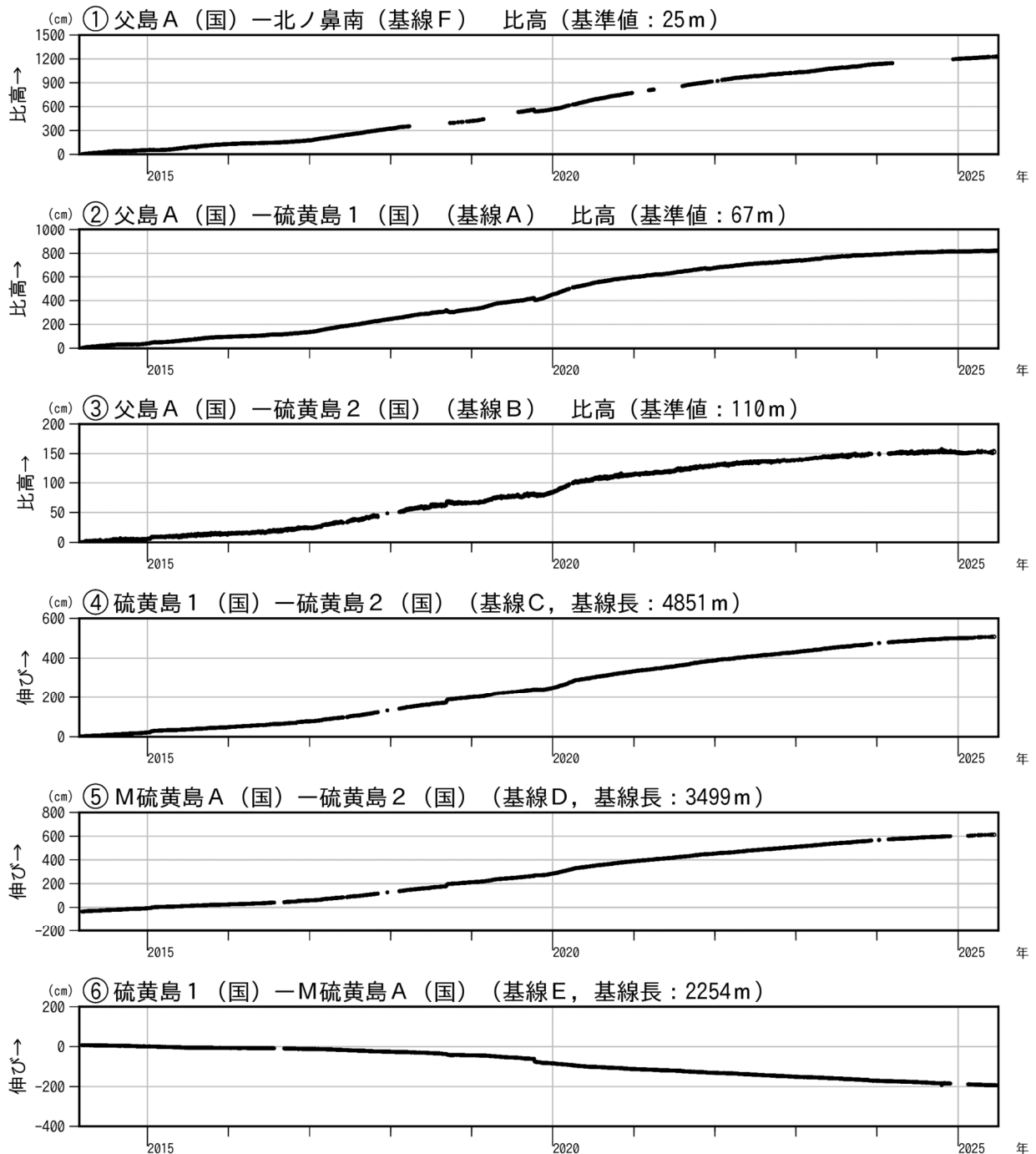
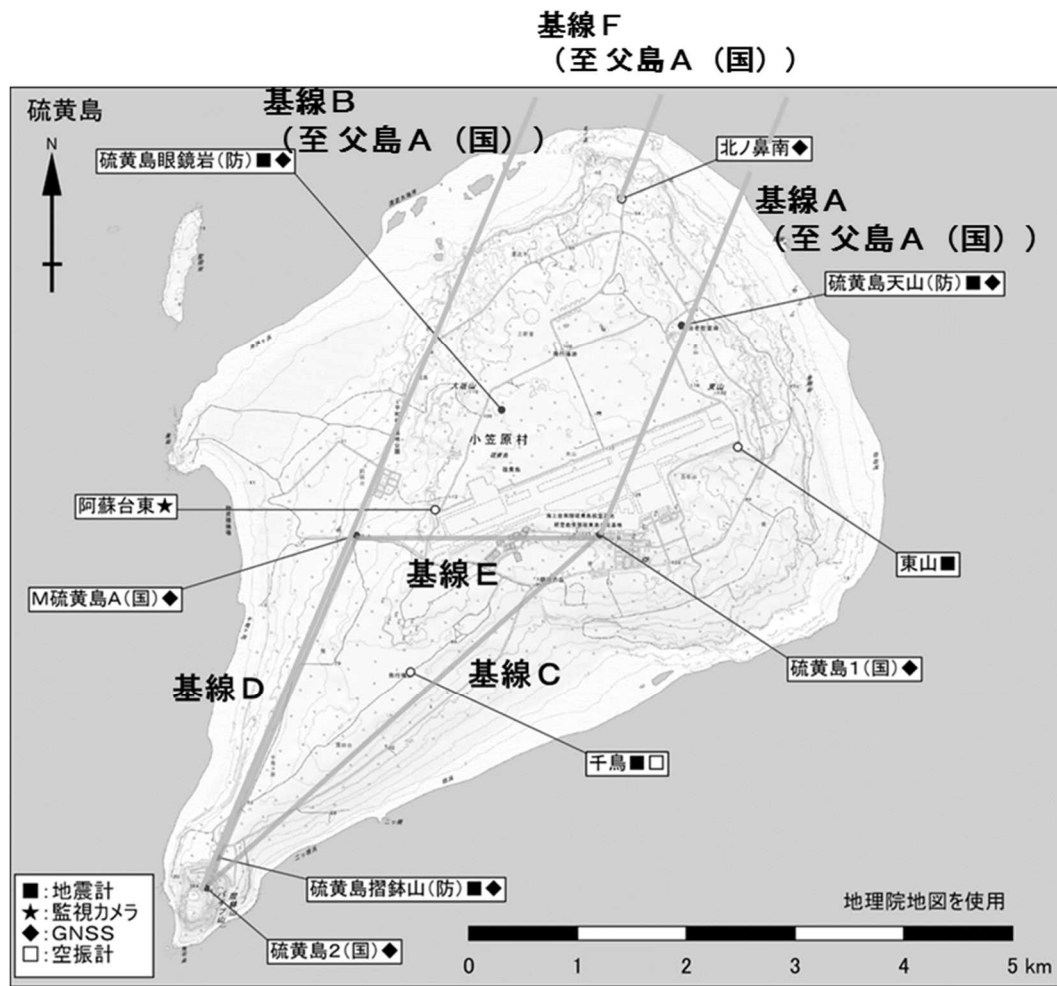


図6 硫黄島 GNSS 連続観測結果（2014年3月1日～2025年6月30日）

（国）：国土地理院。グラフの空白部分は欠測。

- ① 父島 A に対する北ノ鼻南の比高の変化（図7の GNSS 基線 F に対応）
- ② 父島 A に対する硫黄島 1 の比高の変化（図7の GNSS 基線 A に対応）
- ③ 父島 A に対する硫黄島 2 の比高の変化（図7の GNSS 基線 B に対応）
- ④ 硫黄島 1－硫黄島 2 の基線長変化（図7の GNSS 基線 C に対応）
- ⑤ M硫黄島 A－硫黄島 2 の基線長変化（図7の GNSS 基線 D に対応）
- ⑥ 硫黄島 1－M硫黄島 A の基線長変化（図7の GNSS 基線 E に対応）

- ・長期的に島全体の隆起が継続していますが、2024 年頃から隆起速度に低下が認められます。また、2024 年 8 月以降、隆起が停滞する期間も認められます（①～③）。
- ・長期的に④及び⑤の基線長に伸びがみられますが、主に硫黄島 2（国）観測点で南方向の変位が継続していることによります。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所

図7 硫黄島 観測点配置図

GNSS 基線 (A～F) は図4～6の基線に対応しています。